

## 地对協コーナー

地域住民が住み慣れた地域で安心して暮らすことを支援するため、多職種協働が叫ばれ、各地域では「地域包括ケア」を合い言葉に各種の事業が推進されています。

県内には、がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病等の地域連携パスが各地域の基幹病院を中心に運用されていますが、今後の医療には「連携」や「多職種協働」は必要不可欠なものです。「連携」と言えば、広島県医師会が広島県とともに「ひろしま医療情報ネットワーク (HMネット)」(ホームページURL: <http://www.hm-net.or.jp/>) を構築しました。

依然として解消されない医師・看護師不足、救急医療、災害対応などを踏まえると、県内に多数ある医療情報ネットワークは非常に可能性を秘めています。

地对協内に設置の各種委員会でも、協議事項の一つとして議論し、今後の広島県のあり方を模索できればと考えます。

さて、本号は3月に開催された委員会報告です。

県地对協活動へのご意見ご要望などがあれば、事務局までお寄せください。過去の委員会活動などは、地对協ホームページ (<http://www.citaikyo.jp/>) へ掲載していますので、ぜひアクセスしてみてください。

### ○医療体制検討専門委員会

日 時：平成26年3月5日(水) 19時30分

場 所：ホテルグランヴィア広島3階 「天平」

委員長：小林 正夫

広島県の救急医療体制について現状を把握し、今後整備すべき体制について検討を行うため、地域の休日夜間診療所に携わる医療・行政関係者より各地域の現状や課題を報告いただき、委員間で情報を共有するとともに課題解決に向けた道筋を検討した。

#### 報告・協議事項

##### ・各地域の救急医療体制の現状について

各委員より自身が所属する地域の救急医療体制について報告いただいた。

各地区とも、限られた医療リソースの中で体制維持に努めているが、協力医師の高齢化、新規開業医の減少を課題として挙げる地域が多く見られた。

地域の医師確保施策の充実が最重要課題であるが、効果が出るには数年単位で時間がかかるため、即効性のある対策も必要となる。意見交換では、人材確保につながる救急への手当充実のため、行政に予算確保の呼びかけがあったほか、患者が通院できる範囲で、市町にとらわれずリソースを集中して広域的に対応することが必要との意見があった。

また、いくつかの地域から選定療養費導入による二次救急医療機関の受診抑制効果が報告されており、患者の導線を誘導する仕組みづくり、患者教育・広報も重要と考えられる。今後の高

齢社会において重要度が高まるとされる搬送中の既往歴など患者情報の参照や画像伝送にHMネットを活用できれば良いのではないかとの意見もあった。

### ○医療体制検討専門委員会 産科医療提供体制検討WG

日 時：平成26年3月10日(月) 19時

場 所：メルパルク広島5階「椿」

WG長：工藤 美樹

#### 報告・協議事項

##### ・アンケート調査の実施について

産科医・助産師の不足などにより分娩施設が減少する中、各施設の分娩状況などは、行政への届出事項ではないため直近のデータがない。そのため、平成18、19年度に県地对協が実施した調査項目をベースに、県内の産科・産婦人科標榜医療機関と助産所の長を対象に現在の分娩状況と今後の取扱いについて、アンケート調査を実施することとした。

県医療政策課より、アンケート調査(案)について説明があり、出席の委員からは、今後の出生数の動向も考慮した上で体制の検討を求める意見や、里帰り出産の現状などについても調査を希望する意見があった。

##### ・各圏域の現状について

各圏域から出席の委員より、地域の現状について報告があり、いずれの地域でもスタッフ人数に比して分娩件数が多い現状が確認できた。比較的連携がうまくいっている地域もある一方

で、中核病院の分娩中止による影響として、軽症患者の来院を危惧する声もあった。この地域では、今後の指標とするため、里帰り出産の件数など、独自の統計調査の実施を検討することだった。また広大な地域を抱える医療機関の委員からは、地理的に、もう1カ所分娩施設があればといった意見があった。

#### ○肺がん早期発見体制WG

日時：平成26年3月10日(月) 19時

場所：広島医師会館3階 第2会議室

委員長：栗井 和夫

CT検診を実施している施設へのアンケート調査ならびに低線量によるCT検診の周知と普及を目指した講習会を実施した。今般、第2回標記WGを開催し、今後の対策や課題解決に向け協議した。

#### 報告・協議事項

##### ・低線量CTによる肺がん検診のための講習会について

栗井和夫委員長から、低線量CTによる肺がん検診の普及を目的に、昨年度作成したマニュアルを用いて、県内6カ所で「低線量CTによる肺がん検診のための講習会」を開催した旨報告があった。合計で372名の参加があり、受講者に実施したアンケート調査結果からは、読影や撮像技術に関する講習会の開催や情報提供などの要望があった。

##### ・広島県内の肺がんCT検診の実態調査について

松浦明子委員から、年間100件以上のCT検診実施施設を対象に実施した実態調査について報告があった。被ばく線量は1mGy～17.1mGyで、平均的に高い傾向にあった。読影方法はモニタによる読影が多く(16施設)、二重読影が実施(16施設)されていた。ほとんどの施設が検診対象者の基準を設けていない状況で、受診者のうち約10%が40歳未満であった。プロセス指標では、要精検率は0～14.8%とバラツキがあり、精検受診率の平均は28.3%であった。

委員からは、精検受診率の向上や指導強化、対象者の基準などの課題について指摘があった。

##### ・次年度の事業計画について

- ① 低線量CT検診普及のための講習会の開催(広島市と福山市の2会場)
- ② WG委員の訪問による技術支援の実施
- ③ 医療従事者向けのHPの作成について
- ④ 三次市におけるパイロット事業について

平成26年度より、市立三次中央病院が低線量CTを用いた肺がん検診を5年間の事業として実施予定。同事業には、倫理的な課題や対象者の選別などいくつかの課題が残るが、栗井和夫委員長は喫煙者、非喫煙者の割合や性別など、毎年きちんと検診を受ける対象者の選別について、しっかりと検討し、対応していきたいと報告した。

#### ○乳がん医療連携推進WG

日時：平成26年3月17日(月) 19時

場所：広島医師会館3階 健康教育室

WG長：檜垣 健二

乳がん医療ネットワークについて、パスの利用状況やネットワークのフォローアップ機関を対象としたアンケート調査結果を元に、さらなる連携の推進に向け意見交換した。

#### 報告・協議事項

##### ・認定医など確保支援事業について

平成23年から、広島大学は広島県の委託により、がん医療ネットワークの精密検査施設や術後期治療施設に勤務し、認定などの資格取得を希望する医師を対象に研修・指導を行った。県外医師の受講実績もあり、乳がん専門医にも同プロジェクトから合格者を輩出するなど、非常に良い結果を出していることから、事業の継続を希望する意見が出た。

##### ・乳がんの医療連携の推進について

広島県の乳がん医療連携ネットワークや術後患者用手帳「わたしの手帳」は他のがんに先行して推進されているが、依然として乳がんの年齢調整死亡率は、改善しない。また、検診機関の施設要件として、「マンモグラフィと視触診が併用できること」とあるが、適切に視触診ができる医師が減少している現状報告もあった。

こうした状況を鑑み、ネットワークの施設要件、パスのあり方など見直しを行うべく意見交換を行った。出席の委員から、わたしの手帳が普及しない理由として、紹介先が存在しない、医師同士の温度差などが挙げられた。

また、がん検診の精検受診率をアップさせるため、検診機関からの精検受診勧奨を義務づけてみてはといった提案もあった。さらに、がん検診の要精検の結果通知について、県内で統一した書式を要望する意見が多数あり、広島県から再度大手検診機関に依頼することとなった。

## ○精神疾患専門委員会

日 時：平成26年3月19日(水) 19時

場 所：メルパルク広島5階 桃

委員長：山脇 成人

平成25年度の活動状況を報告するとともに、委員会内に設置のワーキンググループも含めた次年度の活動方針について検討を行い、児童思春期精神医療検討WG、認知症医療検討WGを引き続き次年度も継続することを決定した。

**報告・協議事項**

## 平成25年度事業の報告について

## ・児童思春期精神医療検討ワーキンググループの活動について

県下の精神科医及び精神科を標榜する医療機関を対象にアンケート調査を実施した。児童思春期精神医療に関する医療資源は乏しいものの、医師、医療機関とも、2～3割が勉強会や事例検討、研修機会の充実といった条件が合えば診療への協力可能との意向を持っていた。医療資源の掘り起こしが重要であり、今後、人材育成の観点から研修制度の中への組み込みやロールモデルの提示、機能分担の観点から近接領域との連携のあり方の検討が必要と考えられた。

## ・認知症医療検討ワーキンググループの活動について

昨今、認知症患者が精神科病院へ入院するケースが非常に多くなっている。入院患者が身体合併症を発症した場合に、一般科医療機関での受入の可否や入院先となる医療機関がどこまで対応可能なのか状況を把握するため、認知症疾患医療センターを対象に実態を調査することとした。

## ・広島県保健医療計画の指標（目標値）の中間報告について

広島県健康対策課より、広島県保健医療計画に盛り込む精神疾患対策の指標・目標値について説明があった。出席の委員からは、全国的に自殺率が低下しているが、広島県では依然として増加傾向にあるため、自殺予防対策に向けた現状解析とさらなる対策を求める声があった。

また、自殺する要因の一つとして、慢性的な疼痛などの疾患を医療機関で受け止め切れていないことが考えられるため、医療機関の意識改革についても提言があった。

## ・平成26年度事業計画について

今年度設置の2WGについて、平成26年度も継続して設置し活動していくことを確認した。また、次年度の広島県保健医療審議会に活動結果

に基づく提言を行うため、早期に検討を進めていくことを確認した。

※精神疾患専門委員会の開催にあたり、3月13日(木)、児童思春期精神医療検討WGアンケート解析会議（WG長：西田 篤）、3月17日(月)、認知症医療検討WG（WG長：瀬川 芳久）を開催した。両WGの会議模様は、親委員会である本委員会の報告をもってかえさせていただく。

## ○医薬品の適正使用検討特別委員会

日 時：平成26年3月19日(水) 19時

場 所：広島医師会館6階 第2会議室

委員長：木平 健治

昨年11月に実施した「地域包括ケアと服薬管理に関するアンケート調査」結果の詳細について協議した。また、本委員会の今年度事業報告書（案）について協議した。

**報告・協議事項**

## ・地域包括ケアと服薬管理に関するアンケート調査結果について

地域包括ケア体制が構築される中、在宅患者や介護施設の入居者などの薬物療法にそれぞれの職種がどう関与しているのか実態を把握するため、昨年11月、診療所・歯科診療所、訪問看護ステーション、薬局、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、高齢者施設を対象にアンケート調査を実施した。

在宅医療の経験のある施設の割合は、診療所で約60%、薬局で約25%と、平成22年度に実施した調査結果からほとんど変化がなかった。しかし、在宅患者などの服薬管理には、飲み忘れや飲み違い、自己判断による服薬中止などの問題を抱えており、実際に訪問服薬管理指導を依頼した施設からは、残薬が減ったなどの有用性が確認された。

これらの結果を踏まえ、出席の委員からは、職種にかかわらず在宅医療への温度差を指摘する意見やケアカンファレンスを開催する際、薬剤師への参加を呼びかけること、医師も薬の処方に加え服薬管理の重要性を認識すべきなど、多岐にわたる意見が出た。多職種がどんな役割を担っているのか、また日頃からの顔の見える関係の構築が課題であることが改めて認識できる結果であった。



## ○平成25年度圏域地对協研修会

日 時：平成26年3月23日(日) 13時

場 所：リーガロイヤルホテル広島4階クリスタルホール

広島圏域地域保健対策協議会(広島市医師会：松村 誠会長)の担当により、「災害時の医療救護体制について」をテーマに掲げ開催した。東北大学の石井正教授による特別講演、広島大学の谷川攻一教授による基調講演の後、県内の災害医療に携わる関係団体から7名のシンポジストによる発表とディスカッションを行った。研修会へ435名、意見交換会へ221名の参加があった。

次年度は広島中央圏域地对協の担当のもと、平成27年2月8日(日)にグランラッセ東広島にて開催予定である。テーマは現在調整中。

なお、本研修会の詳細については、広島県医師会速報5月5日号の附録にて既報であり、こちらもあわせてご参照いただきたい。

## ○平成25年度第2回常任理事会・第2回定例理事会

日 時：平成26年3月24日(月) 19時

場 所：広島医師会館6階第1会議室・3階健康教育室

平成25年度各種委員会の事業実施状況を確認後、平成26年度委員会組織(案)について協議した。平成26年度もほぼ同様の委員会構成としての活動を承認いただき、またこれまで活動がなかった保健医療基本問題検討委員会にて「病床機能報告制度・地域医療ビジョン」などについて検討することとした。

報告事項として、平成25年度圏域地对協研修会や平成25年度各種委員会の事業実施状況、平成25年度一般会計ならびに特別会計収支中間報告などを行った後、第1号議案平成25年度一般会計・特別会計収支補正予算(案)、第2号議案平成26年度委員会組織(案)ならびに年間行事予定、第3号議案平成26年度一般会計・特別会計収支予算(案)を上程、いずれも挙手多数で承認された。

詳細については、後日広島県医師会速報にて報告予定であるため割愛させていただく。

## ○救急・災害医療関係合同委員会

日 時：平成26年3月28日(金) 19時

場 所：広島医師会館3階 健康教育室

委員長：谷川 攻一

平成25年度集団災害医療救護訓練の総括と次年度訓練の検討、救急医療NETひろしまの運用状況及びシステム更新の進捗状況などについての報告があった。また、災害時医療救護活動マニュアルへ「地域ブロック」の概念を盛り込むことを検討した。

**報告・協議事項**

## ・広島県集団災害医療救護訓練について

平成25年11月9日(土)、中国地区DMAT連絡協議会実働訓練との合同で開催した。今回は広島空港にSCUを設置するなど防災関連機関との連携、DMAT受入の受援訓練という要素があり、県・訓練拠点の報告者からはDMATと協働するという意識付けができたことが大きな成果である旨報告が行われた。平成26年度の救護訓練は、東広島医療センターの担当で開催予定。

## ・災害時医療救護活動マニュアルの改正について

災害時医療救護活動マニュアルに地域ブロックの概念を盛り込むため、報告と意見照会を行った。なお、今回の改正は県HP公開の電子データの差し替えのみを予定する。

## ・広島大学病院の基幹災害拠点病院の指定について

基幹災害拠点病院は、平常時における他の災害拠点病院、DMATなどに対する研修の実施や災害時における活動の中心的な役割を担う。三次被ばく医療機関として放射線医療や除染訓練に携わっている広島大学病院を基幹災害拠点病院とするため、本委員会での報告と意見照会を行った。

現在、指定を受けている県立広島病院との役割分担を明確にすべきと言った意見が出た。

## ・救急医療NETひろしまの運用状況及び更新の進捗状況について

近年、携帯電話サイトのアクセス数が下がっている状況を踏まえ、今後はスマートフォンからも閲覧しやすいページづくりを目指すことを確認した。

平成26年2月に入札が完了し、現行システムに引き続いてNTTデータが開発を担当することとなった。新システムは、平成26年10月からの始動を予定しており、救急応需の他、EMISとの接続、#8000との連携、医療機能情報システムとのデータ統合、NHKデータ放送を活用しての当番医情報のテレビ閲覧可能化などを目指す。

また、県内の全救急車にはタブレット端末を配備し、傷病者の数、事故種別や重症度、緊急性、観察項目をワンタッチで入力できるようにする他、救急車の位置情報確認、現場の写真や手書きの文字を共有できるシステムを検討している。

#### ○平成25年度がん医療ネットワーク説明会

(尾三・広島西部会場)

日 時：平成26年3月28日(金) 19時

尾三会場

場 所：尾道国際ホテル

日 時：平成26年3月31日(月) 19時

広島西部会場

場 所：佐伯地区医師会館大会議室

#### ・がん医療ネットワークについて

広島県では、検診・手術・術後など一連のがん治療をより効率的・効果的に行うためにそれぞれの役割を担う医療機関が参加する医療連携体制の構築を進めている。既存の医療資源を機能ごとに要件を設けて評価・オープン化したことで、有機的な連携の構築ができるようになった。また、地域連携クリティカルパスを用いることで、術後患者の検査結果や治療方針の情報共有や、診断治療施設とフォローアップ施設の

連携により、安全で質の高い医療の継続が可能となる。

同ネットワークは、基準に合わない医療機関を排除する意図はなく、患者に対してある一定の基準を満たした医療機関を紹介すること、医療機関には、この基準を目標とし、努力してネットワークに参加してもらうことを期待している。

#### ・尾三圏域について

尾三会場では、膵がん早期診断、胃がん・大腸がんにおける医療ネットワーク(内視鏡治療症例、外科治療症例)、肝がん医療ネットワークについて解説を行った。

県統一の「わたしの手帳」と尾道地区ですでに稼働しているパスとの整合性についての質問があった。それぞれのパスの利点を活かしつつ、地域の実情に応じて柔軟に対応していくことを確認した。

#### ・広島西部圏域について

広島西部会場では、胃がん・大腸がん・乳がんそれぞれの医療連携について解説を行った。

連携先であるかかりつけ医からの、拠点病院と連携する医療機関が月1回算定できる「がん治療連携指導料」についての指摘は、更なるがん医療ネットワークの推進に向けて本会でも検討すべき課題と考えられた。

## 予防接種法に基づく予防接種に関するリーフレットについて

今般、厚生労働省により標記リーフレットが作成されましたので、お知らせいたします。

なお、本リーフレットは下記の厚生労働省及び公益財団法人予防接種リサーチセンターホームページに掲載されておりますので、ダウンロードの上、普及啓発などにご活用下さい。

#### <厚生労働省ホームページ>

[http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/infulenza/kekkaku-kansenshou20/index.html#hid0](http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/infulenza/kekkaku-kansenshou20/index.html#hid0)

#### <公益財団法人予防接種リサーチセンターホームページ>

[http://www.yoboseshu-rc.com/topics.php?id=1&schemas=type010\\_1\\_1&topics=63#id63](http://www.yoboseshu-rc.com/topics.php?id=1&schemas=type010_1_1&topics=63#id63)

